

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
1	一般社団法人ウイズスポ	中島祥元	代表理事	サイクルツーリズム事業「ツール・ド・ニッポン」の紹介	全国各地の自治体と連携しているサイクルツーリズムイベント「ツール・ド・ニッポン」の紹介。29年度は16地域で18イベントを開催予定。当事業を基盤に「全国サイクルツーリズム連携推進協議会」を設立。全国の自治体等11地域18団体が加盟。観光庁の平成29年度「テーマ別観光による地方誘客事業」の一つにも採択。今後はイベント事業を基盤に「ガイドサイクリング事業」、「サイクルガイドの養成事業」、「サイクリストモニター調査事業」、「外国人サイクリストのモニターツアー事業」、「情報の核となるWEBサイトの整備」等にも取り組み、加盟各地域での通年的、日常的なサイクリストの来訪獲得を目指して活動していく。	サイクルツーリズム	観光振興	サイクリングイベント	自転車マップ
2	石原従道	石原従道	NPO自転車活用推進研究会、横浜市役所	自転車施策の目的と成果	温暖化対策や健康、地域活性化などの利点を考慮し、都市交通としての自転車が見直され、コミュニティサイクル(以下CC)や自転車走行空間整備、自転車総合計画などを組み合わせた総合的な施策が金沢市や堺市、さいたま市、横浜市など全国各地で進んでいる。成果として、回遊性や安全性の向上、交通行動の転換による渋滞改善、CO2削減などが挙げられる。例えば金沢市では、自転車ネットワーク計画の策定・整備や自転車利用ルールの周知等により、自転車事故による死傷者数が減少した。また、CCなどの成果として、立ち寄り箇所数の増加や街の滞在時間の増加が挙げられるが、施設利用者数の増加や売り上げの増加などの定量的な成果は明確だろうか。(事例の紹介予定) 自転車施策がさらに多くの都市で実施され、成果を挙げていくためには、実績(自転車走行空間の距離やCCの回転率など)だけではなく、まちづくりとしての定量的な成果の共有が求められると思われる。	都市交通	自転車ネットワーク	コミュニティサイクル	CO2削減
3	ライン導水ブロック工業会	小西融	ライン導水ブロック工業会事務局(綷イトーヨーギョー内)	街架の置換えによる自転車通行空間整備事例	自転車通行空間を整備する際、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」(国土交通省・警察庁)では、「自転車道や車道端部の路面は、自転車の安全性を向上させるため、平坦性の確保、通行の妨げとなる段差や溝の解消に努め、滑りにくい構造とするものとする。」と規定されています。 ライン導水ブロックは、L型街架の代替構造物として歩車道境界ブロックと基礎コンクリートを一体化し、水路と集水スリットを設けた構造とすることでエプロンをなくすることができ、その結果、平坦な路面が拡大し路肩走行の安全性が向上するとともに、路肩の水溜り解消、水ハネ抑制が実現できる歩車道境界ブロックです。	自転車通行空間	自転車ネットワーク	道路空間再配分	-
4	茨城県水戸市	中村良太	交通政策課	水戸市における自転車利用環境整備の取組	水戸市では、平成26年9月に有識者・関係団体及び公募市民から構成される水戸市自転車利用環境整備審議会が設置されました。以降2年半に渡る議論を経て、平成29年3月に水戸市自転車利用環境整備計画を決定し、今年度より自転車利用環境の整備に着手しております。今回は、自転車通行空間整備と自転車ネットワーク及び広報の実施状況をご紹介させていただきます。 自転車通行空間整備については、前回会議で紹介させていただきました。市道千波2号線における社会実験の検証結果を踏まえ、整備方針をとりまとめています。 自転車ネットワークについては、独自のフローチャートを作成し、道路の特性に応じて優先整備路線を分類しました。広報活動については、この半年間で2回の特集記事を市の広報誌に掲載し、様々なご意見を頂戴しております。 以上について、簡単ではありますがポスターとしてとりまとめましたので、ぜひお立ち寄りください。	自転車通行空間	自転車ネットワーク	路面表示	広報・PR
5	地球の友・金沢、金沢レンタサイクルまちなり事務局、金沢星稜大学地域スポーツマネジメントゼミナール	川原 聖士	金沢星稜大学地域スポーツマネジメントゼミナール	サイクリングツアーによる「まちなか」と中山間地の魅力発見！～大学生・留学生・地元住民との協働をとおして～	本発表は、金沢公共レンタサイクル「まちなり」を活用して、「まちなか」と「中山間地」のそれぞれの魅力を発見することを目指したプロジェクトの事例報告である。 昨年度のツアー主催者、地元住民、ツアー参加者というステイクホルダーに加え、今年度は大学生、留学生をメンバーに加え、より幅広い視点からのアプローチを試みた。 「まちなか」ツアーでは、大学生と留学生を対象として自転車の交通安全教育、金沢市のまちなか魅力発見をレンタサイクルまちなりで行った。交通指導の様子や状況、参加者の感想やワークショップの結果から、ツアーの実施効果について報告する。 「中山間地」のツアーでは、「まちなり」で金沢市の里山である直江谷地区へ、地元のイベント開催日に合わせて訪問した。ツアー主催者の意図、ツアー参加者の感想、ツアーを受け入れた地元住民の変化、反応から今後の可能性を報告する。	サイクルツーリズム	レンタサイクル	観光振興	自転車マナー
6	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 中部支店	立松秀樹、加藤明里	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 中部支店	ドライビングシミュレータを用いた、大規模交差点の自転車通行空間の整備計画検討	愛知県名古屋市内に位置する国道22号の三の丸交差点は、国土交通省名古屋国道事務所が管理する大規模な三枝交差点である。自転車通行空間を整備するにあたり、本交差点の安全で快適な横断方法、及び逆走での横断を防止するための効果的な対策方法について、ドライビングシミュレータ(以下、DS)を用いて、利用者のニーズを踏まえ検討した。交差点の横断方法については、横断距離や線形の異なる2パターンをDSにて被験者に走行してもらい、自転車目線及び自動車目線でそれぞれ交差点横断方法の安全性、走行性を評価するとともに、交差点横断時の自転車の走行速度も含め最適案を選定した。逆走の対策方法については、路面標示や防護欄の形状、案内サイン等を組み合わせ4パターンの対策を施した区間をDSにて被験者に走行してもらい、分かりやすさを評価し、逆走が禁止である旨が最も分かりやすいと考えられる案を選定した。	自転車通行空間	道路空間再配分	幹線道路	路面標示
7	吉岡宏晃	吉岡 宏晃	徳島大学大学院	ドライビングシミュレータを用いた自転車の通行方法安全性分析	交通事故シミュレーション、交通事故要因抽出においてドライビングシミュレーター(以下DS)が用いられている。路外実験では危険性を伴うような交通条件や、コンピューターマイクロシミュレーションで考慮が難しい多様なドライバー特性の実験が必要な場合など、DSの活用が期待されている。また、自転車についてもDSが開発され、走行環境の評価や、危険状態での運転経験を生かした教育ツールとしても活用が進んでいる。今回はDSの機能の紹介と、DSを用いた自転車の通行方向の安全性分析の結果を発表する。	自転車事故	自転車通行空間	-	-

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
8	国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所 道路調査第一課	山沖呼対	国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所 道路調査第一課	etc2.0データとスマートフォンGPSを用いた自転車利用促進PRについて	徳島市中心部は、主要な官公庁などの業務施設が集中しており、朝の混雑時間帯に走行速度が大きく低下し渋滞が発生している。しかし、徳島市中心部は既に住宅が建ち並んでおり、道路幅や交差点改良等の用地買収に伴うハード面での対策は困難である。そこで、ETC2.0データとスマートフォンGPSのプロブデータを活用して朝の通勤時間帯における時間帯別、交通手段別の所要時間の分析を行い、交通手段の転換を促すことで渋滞の緩和が可能か検討した。検討した内容及び自転車利用PRの方法について報告するものである。	自転車利用促進	自転車ログ	-	-
9	岡山県真庭市	栢野美圭	真庭市産業観光部産業政策課	真庭市 自転車のまちづくり	真庭市では、地域資源の活用と地域活性化を図ることを目的とし、隣シマノの協力を得ながら、平成25年から自転車のまちづくりをスタートしました。市民、民間事業者、行政、市外の方などが協力し、真庭の地域資源を自転車で楽しむ企画「真庭で散走サイクリング」を作り上げました。観光客の方に楽しんでいただけて、プログラムを企画した市民にとっても地域資源を再発見するきっかけとなっています。観光だけでなく、自転車を活用した健康づくり(健康)、サイクリングルートやサイクリングステーションの整備(環境)など、真庭市ではあらゆる面で自転車を活用しています。	住民参加	観光振興	自転車文化	サイクルツーリズム
10	ぼちぼち自転車くらぶ	やまがなおこ	ぼちぼち自転車くらぶ / 自転車活用推進研究会	おやこ自転車相談室の試み - 対話型の学びへ -	『おやこで自転車はじめてブック』(疋田智監修、子ども未来社)を発行後、子乗せ自転車利用者向け、これから利用を考えている人向けに、交通ルールや注意点を伝えるワークショップを開いてきました(対象は主に女性)。その経験を踏まえ、親世代向けの学びの場に必要な要素・内容・形式について考察します。キーワードは、対話型・市民性の育成・パートナーシップ。誰でも取り組める交通安全ワークショップの提案もする予定です。	交通安全教育	ヘルメット	-	-
11	キープレフトプロジェクト	南八重智子	キープレフトプロジェクト代表	KEEP LEFT PROJECT	キープレフトプロジェクトは、自転車にKEEP LEFTのプレートをつけることで自転車の左側通行を推進していく事業です。 ＜活動の内容＞ ■KEEP LEFTプレートを作るワークショップ デザインされたKEEP LEFTの台紙に、絵を描いたりぬりえをしたりして仕上げにラミネート加工して自転車のカゴに付けられるようになります。 ■KEEP LEFTオリジナルプレートの販売 みんなが付けたいと思うようなおしゃれでかわいいデザインのプレート(アルミ、ラミネート)の販売。 自転車にKEEP LEFTプレートをつけることでみんなが「自転車は左側をはしる」という「気づき」と「意識」を持ち「思いやり」につながればと考えています。	自転車マナー	交通安全教育	学校教育	-
12	中国四国地方環境事務所	満手康人	環境対策課	バイクビズでいこう。	中国四国地方環境事務所では、平成21年度より地球温暖化対策の一環で「bikebiz」(バイクビズ)と申しまして、地球温暖化対策や健康増進、交通ルールの遵守、まちづくりの観点など7つのコンセプトで自転車の活用推進を行っております。取組内容としては、過去には国の出先機関や地方自治体、NPO団体等を構成員とするbikebiz会議を開催していましたが、平成26年からは、国民や民間企業の自発的な活動・あるいは自主的な取組を促すことを目的としてbikebiz推進フォーラムを開催しており、昨年度は松山市で開催いたしました。そのほか、有識者や行政、民間団体を中心として自転車活用推進に関する意見交換を行っています。	自転車利用促進	co2削減	-	-
13	藤本英子	藤本英子	京都市立芸術大学	景観からみた自転車走行環境整備における路面表示の色彩	各地で自転車環境整備を進める中では、路面表示のデザインと景観との調和も重要な要素である。 2007年に警視庁と国土交通省による「自転車利用環境整備ガイドライン」が作成された頃より、自転車走行レーンを青系で表示する事例が多くなってきた。 本来自然環境の中に存在する色彩より、彩度の高い青色は、ブルーシートに代表されるように、景観の中で大変突出する色彩として、問題視されてきたが、各地で青色に整備された路面色にも、専門家からは批判の声が多くなった。 2016年の「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の見直しでも、Ⅱ-5「帯状路面表示及び矢羽根型路面表示の色彩は青色を基本とするが、環境にも配慮し」とされている。走行環境としての連続性を維持しながらも、周辺景観から逸脱しない色彩での路面表示について、どのように考えるのかを、「デジタル画像色分析システム」の活用により分析する。	路面表示	ピクトグラム	自転車通行空間	-
14	静岡市都市局都市計画部交通政策課	早川昌樹	静岡市都市局都市計画部交通政策課	～世界水準の自転車都市を目指して～ 静岡市自転車利用計画の推進	平成26年度に策定した『静岡市自転車利用計画』の紹介。自転車活用推進法の重点施策にもある「健康」、「環境」分野を含んだ5つの基本目標の説明やこれまでに取り組んだ実施事業を簡単に紹介。 【実施事業】 ①走行空間整備 ②自転車マップの作成 ③まちなか押し歩き啓発(商店街との連携事業) ④タンDEM自転車走行解禁 ⑤自転車利用促進イベントの開催 ⑥自転車条例の制定 ⑦自転車利用環境向上会議の開催 など	まちづくり	-	-	-
15	京都市	芝 和樹	建設局自転車政策推進室	京都市の自転車安全利用に係る取組	京都市では、「京都市自転車安心安全条例」(平成22年12月施行)及び「京都・新自転車計画」(平成27年3月策定)に基づき、自転車の安全利用に対する市民等の意識向上を図るため、ライフステージに合わせた、京都ならではの体系だった自転車安全教室の充実に取り組んでいる。 とりわけ、自転車事故に占める割合が高い中学生及び高校生を対象とした、開催校の周辺地域の交通事情など、より身近な環境を題材にした座学形式の教室の充実と、今後自転車デビューを迎える幼児を対象とした、キックバイクを用いた教室の充実に注力しているところである。 また、昨今の自転車事故における高額賠償事例の発生等を踏まえ、この度、条例を改正のうえ、自転車保険への加入を義務化(事業者・レンタサイクル事業者は平成29年10月から、一般の自転車利用者は平成30年4月から)し、万一の事故発生に備えた保険の加入促進に努めているところである。	交通安全教育	自転車保険	-	-

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
16	保城秀太	保城秀太	大阪市立大学大学院都市基盤計画研究室	こどもの自転車交通安全教育に関する実施主体間比較からみた課題に関する事例研究	小中校生の年齢に相当する5歳から19歳のこどもの自転車事故死傷者数が他の年齢層に比して高く、その背景要因が問題視されている。このようなこどもの自転車事故を減少させるためには、交通安全教育が重要である。しかし、交通安全教育を行っているその他の団体(①学校、②警察、③地方公共団体、④民間団体、⑤ボランティア)それぞれの交通安全教育の主体間の違いによる自転車等の交通安全教育・講習制度、課題については詳細に把握されていないという現状にある。そこで本研究では、国内においてこどもを対象とした自転車交通安全教育の実施関係機関や団体にヒアリング調査を行い、国内におけるこどもの自転車教育の現状と課題の把握を行った。また、教育内容を項目別に比較することで教育実施団体の特徴を明らかにすることができた。	自転車事故	交通安全教育	学校教育	-
17	小西琢也	小西琢也	大阪市立大学大学院都市基盤計画研究室	外出困難者を対象とした2人乗り可能な自転車の潜在的利用機会と課題に関する研究	近年、都市部においても外出困難者の存在が確認されている。一方、こういった対象向けに、手軽な乗り物として、2人乗り可能なもの、電動アシスト機能のあるものなどが開発されてきている。これらは自動車等を使えない場面での活躍が期待され、外出困難者の新たな交通手段としての可能性が考えられる。しかし、外出困難者による2人乗り可能な自転車の利用に関して検討した事例は少ない。本研究では外出困難者を対象とし、外出困難者に対して事業を行っている福祉事業者へのヒアリング調査と2人乗り可能な自転車を用いた利用評価を行うことにより、外出困難な状況や2人乗り可能な自転車の潜在的利用機会とその課題について把握することとした。	電動アシスト自転車	タンデム自転車	高齢者利用	-
18	萩田賢司(自動車安全運転センター)・横関俊也(科学警察研究所)	萩田賢司	自動車安全運転センター	自転車事故の現状と自転車の進行方向別の交通事故率調査	日本の自転車乗車中の交通事故死者数は、年々減少傾向にあるが、先進国が中心となってIRTADで集計されている世界の自転車事故死者数を比較すると、自転車乗車中の死者数が最も多くなっている。人口当たりの自転車死者数は世界と比較して比較的多くなっており、日本の自転車乗車中死者数の多くは高齢者である。また、千葉県東葛地域で、自転車の進行方向別に交通事故分析実施したところ、右側通行の自転車の交通事故件数が、左側通行の自転車と比較して多発していることが示された。これにあわせて自転車の走行実態調査を実施したところ、単路部においては、歩道・車道走行に関係なく、右側通行の自転車の交通事故率が高いことが示された。	自転車事故	自転車通行空間	-	-
19	鹿児島県南さつま市	森雄大	南さつま市観光交流課	南さつま市サイクルツーリズムの取り組みについて	本市は、県立吹上浜海浜公園や吹上浜サイクリングロードの整備が進むなか、自転車によるまちおこしを全国でもいち早く取り入れ、平成7年に「サイクルシティかせだ」を宣言しました。それ以降、自転車による新しいまちづくりを実現するため、自転車道やサイクルステーション、宿泊施設などハード面の整備をはじめ、イベントの開催、産業・文化の振興などソフト面の充実も図ってきました。本市では、サイクルシティ構想の一環として、自転車を活用した観光への取組「サイクルツーリズム」に焦点を当て、課題を整理するとともに、本市のこれまでの活動を、地域内のみならず、地域外へも広く周知し波及させ、サイクリングを通じた広域的な周遊観光を促す環境づくりを推進することで、新たな観光スタイルを創出し、滞在型観光の拡大による観光振興や、来訪者の増加による地域活性化を実現するため、「サイクルツーリズムビジョン」策定し取り組みを推進しています。	サイクルツーリズム	-	-	-
20	輪の国びわ湖推進協議会	藤本芳一	輪の国びわ湖推進協議会	輪の国びわ湖推進協議会の活動内容	輪の国びわ湖推進協議会は、びわ湖一周サイクリングをきっかけに、多くの方の自転車の良さを知っていただき、日常生活でも自転車を使われる方を増やすことで、自家用車から自転車屋公共交通への転換を図っていくと、市民の有志を中心に活動しています。活動内容としては、びわ湖一周された方への認定証の発行、びわ湖一周サイクリングガイドブックの制作、自転車にやさしいお店や宿泊施設を増やすための協賛ショップの募集、各地でのイベントに出展してのびわ湖一周サイクリングのPR、自転車利用促進のためのセミナー・シンポジウムの開催、マンガを使ったポスター掲示や自転車教室を実施しての安全啓発などを行っています。それらの活動内容について発表させていただきます。	サイクルツーリズム	観光振興	自転車マップ	自転車マナー
21	一般社団法人カーフリーデージャパン	山口千恵	一般社団法人カーフリーデージャパン	横浜開港祭サイクルピクニック	今年6月2,3日(金・土)に開催した「横浜開港祭サイクルピクニック」というイベント(セブンイレブン記念財団助成事業)の活動報告、及び、モビリティウィーク&カーフリーデーについての公表。これらは交通まちづくりに基づく取組みで、横浜開港祭サイクルピクニックは「自転車の正しい乗り方」、「自転車の楽しさ」、「交通とまち(人と環境にやさしい交通が優先のまちの豊かさ)」をPRしての自転車利用推進の啓発を目的に開催した。	道路空間再配分	住民参加	自転車利用促進	自転車マナー
22	堺 自転車のまちづくり・市民の会	豊島 宣	堺市建設局自転車まちづくり部自転車企画推進課	「自転車のまち・堺」を支える堺 自転車のまちづくり・市民の会の活動について	本市では、「堺 自転車のまちづくり・市民の会」(市民ボランティア団体)と行政が一体となって、「自転車」のまちづくりを進めており、自転車のまちづくりを進める本市にとって、なくてはならない活動団体である。市民の会の主な活動は以下の通り。 ①「自転車デー」の開催 自転車クイズなどを通じて、市民とのコミュニケーションを図り、自転車のルールの周知、マナーの向上を呼び掛けている。 ②「堺 自転車地図」の作成 市民の会の会員が実際に市内を試走し、推奨コースを紹介。 ③SAKAI散走等のイベントの企画・立案 自転車の利用促進、楽しみを伝えるため、SAKAI散走やサイクリング等のイベントの実施 ④「堺 自転車の楽校(がっこう)」の開講 さらに安全・快適で楽しい自転車利用の推進、また「自転車のまち・堺」から自転車の魅力を発信するため、月1回、「堺 自転車の楽校」を開講	まちづくり	-	-	-

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
23	国土交通省北海道開発局・北海道	酒井 聡佑 (さかい そうすけ)	国土交通省北海道開発局建設部道路計画課	北海道のサイクルツーリズム推進に向けた取り組み	我が国では自転車活用推進法の施行(平成29年5月)により、自転車を取り巻く機運が高まっている。また平成28年3月に閣議決定された「北海道総合開発計画」では、北海道において、アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」を目指すこととしている。北海道開発局および北海道では、このような情勢を鑑み、広域的な観光周遊ルート形成の促進が期待されるサイクルツーリズムを推進するため、平成29年2月に「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」を設立し、先進地域の取組等も踏まえつつ、自転車の走行環境、受け入れ環境の改善・充実を図るための方策や、サイクリストも参画した効果的な情報発信の方策について、専門的見地から審議を行っている。本パネルは、その取り組みを紹介するものであり、道内5つのモデルルートにおける今年度の試行内容についてまとめたものである。	サイクルツーリズム	観光振興	自転車マップ	案内サイン
24	宇都宮大学都市計画研究室	加納 杜貴	宇都宮大学大学院工学研究科都市計画研究室	押しチャリによる安全で活気のある商店街を目指して	環境に優しく健康増進にも寄与する自転車を交通体系に積極的に取り入れる動きが各地で始まっており、自転車利用環境の整備が進められている。しかしながら、自転車利用環境の整備と同時に解決しなければならない課題に自転車利用マナーの改善がある。宇都宮市においても、中心市街地に位置し、歩行者と自転車が混在しているオリオン通り商店街において、並走したり高速で走ったりする自転車のマナーが問題となっており、これらを解決していく必要があった。そこで、オリオン通りでは、中心市街地活性化の一環として、「宇都宮まちなかオープンカフェ社会実験」(2016年10月)が実施され、期間中自転車の押しチャリが推進された。本発表では、オリオン通りにおける社会実験前後の自転車走行実態をビデオ映像及び歩行者計測カウンターを用い、社会実験前後の自転車通行実態を分析した。	押しチャリ	Eco-counter	中心市街地	地域活性化
25	宇都宮大学都市計画研究室	加納 杜貴	宇都宮大学大学院工学研究科都市計画研究室	自転車自動計測システムを用いた自転車通行量の実態調査	平成24年11月に『安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン』が示された。ガイドラインでは、車道走行を原則とした自転車通行空間の整備指針が示された。一方で栃木県では、高齢者の自転車事故が多発しているなど、自転車利用環境の改善を図ることが重要な課題となっていた。このような背景から、栃木県と宇都宮市、栃木県警察本部、宇都宮国道事務所は、自転車利用環境検討会議(検討会)を設け、安全で快適な自転車利用環境の創出に向けた検討・自転車走行空間整備を行ってきた。宇都宮国道事務所は、国道4号線(泉が丘交差点～宇都宮東署付近約1km区間)の車道上に矢羽根型の自転車通行路面表示を設置した。そして、矢羽根の表示区間における自転車走行実態と課題の把握を行うために、海外で採用実績のある自転車と歩行者の自動計測システム(Eco-counter)を国道としては我が国で初めて導入した。約3年間にわたり自動計測された自転車と歩行者の通行量を分析し、歩道と車道を通行する自転車の実態の把握を行った。	自転車自動計測システム	Eco-counter	自転車通行量	自転車通行空間
26	国土交通省 四国地方整備局 香川河川国道事務所	中西 麻美子	香川河川国道事務所 高松国道維持出張所	より快適な道路空間確保に向けた取り組み～国道11号(高松市木太地区)～	国道11号の木太地区は、市内中心部への通勤・通学路となっていることから、自転車と歩行者が多い区間であり、自転車と歩行者が混在して通行しており、接触事故等が発生している。道路利用者がにとってより快適な道路空間を確保するため、電線共同溝事業の整備にあわせ、道路空間の再配分を実施しているところであり、工事の実施状況について報告する。	自転車通行空間	道路空間再配分	幹線道路	-
27	株式会社 一心助け	鈴木 英雄	代表取締役	【特許】バンク激減・ご機嫌チューブによる安全安心な自転車走行	通常の空気入りチューブ・バンク補修剤・ソリッドタイヤ・厚肉チューブ・タイヤ等と【特許】バンク激減・ご機嫌チューブとの比較。 【特許】バンク激減・ご機嫌チューブが空気入りでありながらバンク激減する仕組み。 これまで国内外での実証実験による、バンク激減効果。 この【特許】バンク激減・ご機嫌チューブ装着自転車の利便性及び通学・通勤・ロード自転車等及びシェアサイクルでの経費節減と自然観光道路保全による観光資源と観光産業の発展及び地域経済活性化貢献について。	自転車ネットワーク	自転車点検	観光振興	自転車通勤
28	株式会社 一心助け	鈴木 英雄	代表取締役	【特許】平面画像の立体認識技術製品による安全安心走行ゾーン	通行区分帯やゾーンを平面画像でありながら、あたかも立体物があるかのように見せ、走行中の通行区分帯から他の区分帯に侵入させにくくさせ、事故を激減させる方法及び製品です。 誤って他の通行帯・ゾーンに侵入したとしても、従来のように構造物にぶつかることが無く、怪我や物損事故もなく、荷降ろしでの一時駐車も可能であり、商店街への影響も少ない。 構造物でないため交差点上に設置することにより、自動車と自転車・歩行者等の巻き込み事故も大幅に防ぐことが出来る。 ① 平成28年度埼玉県新製品・新技術マッチング事業採択 埼玉県越谷市しらこぼと公園駐車場出入り口実証実験結果 従来中央走行から左側交互通行移行によりスムーズ交通 従来違法駐車が多く、通行の妨げがあったのが違法駐車激減(0と言ってもよい) ② 三鷹市地下駐輪場実証実験結果 従来立体実物ポール素設置していたが無断駐輪が絶えなかったのを違法駐輪激減(0と言ってもよい)	路面表示	自転車事故	観光振興	都市交通
29	中国経済産業局(事務局)・株式会社エブリプラン	小田 千愛	株式会社エブリプラン 地域政策推進部	サイクリング・ツーリズムを中心とした新たな観光関連産業創出に向けた調査事業～自転車・手荷物輸送サービス実証実験～	中国経済産業局では、各地域で取組が広がるサイクリング・ツーリズムにおいて、「自転車の輸送」を中心に、幅広い観光サービスを生み出すための課題や必要な取組について検討を進めています。この度、世界有数のサイクリングロードとして知られる瀬戸内しまなみ海道において、バイクボックス(特許取得済)を利用して「自転車を分解せず、簡単かつ傷つけずに目的地まで輸送する」サービスを実証いたします。これにより、「行きはサイクリング、帰りは自転車を預けてバスや船で移動しながら観光」といった楽しみ方が可能となります。また、「しまなみ海道ライドにはチャレンジしたいけれど、往復は長いので片道ライドができれば…」という方も安心してサイクリングを楽しむことができます。 今後の全国的な展開を見据えて、様々な方の意見をお聞きするとともに、当輸送システムを自転車関係の有識者に広く知っていただきたいと思っております。	社会実験	サイクルツーリズム	観光振興	-

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
30	一般社団法人 伊豆観光 圏活性化協会	松富 毅	代表理事	伊豆半島から「思いやり1.5m 運動」	愛媛県から始まった「思いやり1.5m運動」を伊豆半島からもスタート させました。伊豆半島は「2020 東京オリンピック・パラリンピック」自 転車競技開催地でありながら、伊豆半島ジオパークである事から地 形が急峻な地域のため、自転車文化の薄い地域です。この地域に 訪れたオリンピック選手が練習に道路を自転車で走行したときに「こ の地域の車の運転手は自転車に優しいな」と感じられる地域にし、 交通安全が「オリンピックレガシー」になってくれば、自転車交通 事故で悲しむ人がいなくなれば、素晴らしい事だと考え、この運動を スタートさせました。10ヶ月間の活動で 1. 静岡県東部地域20市町で「思いやり1.5m運動」マグネットシート を公用車に貼ることが決まりました。 2. 「思いやり1.5m運動」キャラバン隊を編成し、サイクリストが運動 啓蒙活動を行いました。 今後は愛媛県、沖縄県とも連携し、日本統一の「思いやり1.5m運動 」公式ジャージを制作したいです。	通行環境	安全・教育	ツーリズム	まちづくり
31	ソートン・フランク	ソートン・ フランク	スペシャル オリンピック ス日本	もうひとつのオリンピック	1. 知的障害のある人たちにスポーツレーニングをその成果の発 表の場である競技会を年間を通じて継続的に提供している国際的 なスポーツ組織です。 2. ボランティアの啓発 3. 知的発達障害のある人たちに理解促進と認知向上 4. 全国に呼びかけ自転車競技の面白さを広める 5. 知的発達障害のある人たちが日ごろから安全に自転車を乗りな し、自ら地域に向き、行動範囲を広げ、社会の一員になれるように 自転車の素晴らしさを伝える。	住民参加	ロードレース	-	-
32	大阪市	吉田 博	大阪市建設 局企画部 方面調整課 (自転車施 策担当)	大阪市の自転車通行環境に ついて	大阪市は、地形が平坦で自転車が利用しやすいことなどから、1人 が約1台の自転車を保有し、その保有率が全国の政令市でトップレ ベルにあるなど、自転車利用のポテンシャルが極めて高い都市で ある。 そのため、平成24年3月に自転車に関する総合計画として策定した 「自転車利用環境の整備に関する今後の取組みの考え方」に基づ き、自転車の「はしる」「とめる」「きちんとつかう」という3つの切り口 から施策を進めており、最近の取組事例3つを紹介する。 ・「はしる」に関して、日常交通としての安全な道を確保するための 自転車レーン等の整備 ・「はしる」に関して、観光や健康等を目的とした自転車利用に対応 する「快適で楽しい道」のネットワークに関する検討 ・「きちんとつかう」に関して、交通管理者や民間企業と連携した、子 供を主要ターゲットとした自転車安全利用促進イベントの開催	自転車ネット ワーク	自転車事故	住民参加	-
33	NPO法人瀬戸内サイクル メディア	斉藤孝穂	NPO法人瀬 戸内サイク ルメディア	瀬戸内輪遊プロジェクト	輪遊(りんゆう)とは自転車で周遊するという意味の造語です。自転 車で瀬戸内沿岸を含む中山間地域を巡り、朱印を集めるといってお 遍路さんのような自転車文化の定着を目指しています。輪遊者は、御 朱印帳をイメージした輪遊帳を携え、広島県内外に設置された朱印 を集めてサイクリングします。好きな時に好きなところから始められ 、朱印を集める順番も自由です。期限もありませんので、ご自分 に合ったプランとペースでじっくり楽しんでいただけます。このプロジェ クトは広島県主催、ひろしまとやま未来博2017のコロナ対応 プロジェクト参加企画ですが、未来博が終了したあとも継続してい きます。全ての朱印を集めると、完走証と記念品を進呈します。輪遊 によって地域の魅力に触れていただき、たくさんの方が繰り返し訪 れるように。やがては瀬戸内全体に輪遊が広がり、一大サイクリン グツーリズムになることを目指して。	サイクルツー リズム	観光振興	-	-
34	日本写真判定株式会社	吉川智之	総合企画部	競輪場の新たな役割	戦後復興の推進の為に始まった競輪であるが、現在においてはそ の果たすべき役割にも変化が生じてきています。過去には収益から 一般会計へ多額を繰り出し、学校教育施設整備や病院建設など大 きな貢献をしてきました。現在、売上はピーク時における約3分の1 となり一般会計へ繰り出せない競輪場もあります。このことから財 源だけではなく新たな競輪場の役割が求められています。 当社では自転車競技の普及拠点として競輪場を積極的に多くの市 民への開放を行う事で、競輪場が自転車競技の普及・強化となるだ けでなく、市民の健康やスポーツの拠点としての役割も果たせるも のと確信しています。ギャンブル場としてしか活用されていなかった 公営競技場を、地域住民をはじめとする全ての方のための施設と して生まれ変わらせることが、地域及び国内経済／雇用創出／健康 増進スポーツ振興への貢献に繋がります。「街が元気になる」それが当 社の公営競技に対する思いです。	交通安全教 育	サイクリン グイベン ト	自転車文化	自転車利用 促進
35	バスと自転車の共存プロ ジェクト	高島亮太	バスと自転 車の共存プ ロジェクト代 表	バスドライバーと自転車利用 者の意識の共有～バス死 角体験の取組み～	自転車とバスは道路で同じ様な速度で走るもの同 士錯綜機会が多く、トラブルや事故が起こりやすい。また近年の自 転車通勤やサイクリススポーツの盛り上がりによりルール無視の自 転車も増加し、バス事業者からも自転車に対してネガティブな声 が聞かれる様になってきたことを背景に、両者の相互理解の機会とし て路線バス車と自転車を用いた「バスの死角体験」を自転車レー ス会場やバス事業者のイベントなどで実施。バス運転席の運転士と 死角に入った自転車利用者の視点や立場を同時に体験することで 、牽動の理解やコミュニケーションの重要性、安全運転意識の向上 を図っています。	シェア・ザ・ロ ード	交通安全教 育	自転車マナ ー	公共交通連 携
36	金沢市	松村将亮 (発表者氏 名:小西枝 里香)	都市政策局 交通政策部 歩ける環境 推進課	金沢市の自転車施策につ いて	平成23年3月に「金沢市まちなか自転車利用環境向上計画」(計画 期間:平成22～31年度)を策定し、「はしる・とめる・つかう・まもる」 の4つの基本方針に基づき、各種施策を実施しています。また、中 間年にあたる平成27年度には、これまでの取組や成果を「つなぐ・ ひろめる」という視点から見直しを行い、市域全体の自転車利用環 境を目指す、中間見直しを実施しました。 今回の発表では、自転車通行空間の整備(はしる)、サイクル&ライ ド(とめる)、公共レンタサイクルまちのり(つかう)、自転車安全利用 促進条例改正のポイント(まもる)を紹介します。	自転車通行 空間	安全利用条 例	コミュニテ ィサイク ル	サイクル&ラ イド

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
37	公益社団法人日本交通計画協会	三浦 清洋	交通計画研究所企画室	都市交通としてみたバイクシェアリング	<p>公益社団法人日本交通計画協会は、都市交通に関する制度の研究・提言や、事業の実現化支援を行っています。</p> <p>これまでの、幹線系の公共交通に加え、今後の成熟社会を形成する上での、きめ細やかな面的移動を重視することが必要だと考えています。</p> <p>都心部での同時に、多方面に発生する移動ニーズに対し、合理的に対応できるサービスの一つとして、バイクシェアリング・コミュニティサイクルに着目しています。</p> <p>これら事業が効果を発現するには、規模と密度が重要になります。ラストワンマイルへのサービスなどとして一定の利用が発現している海外の事例は、概ね300m程度の間隔にポートが分布しています。これらは、利用者利便だけでなく、運営側の負荷軽減にもつながっています。</p> <p>一方で、民間主体のフリーフロント型と呼ばれる事業が発芽してきている中、今後の「公共・公益」としての持続可能な事業のあり方について要点を整理します。</p>	都市交通	シェアサイクル	コミュニティサイクル	ラストワンマイル
38	いしかわ里山里海サイクリングルート(小松・加賀地区)地区連絡会	高辻 貴嘉	加賀市建設部都市計画課	いしかわ里山里海サイクリングルート 日本遺産・加賀四湯いでゆルート	<p>サイクリングを活用した観光誘客の促進を目的として、自転車で石川県内を巡る利用者に対し、地域の独自性を発揮しつつ、一定水準のサービスを提供するサイクリング環境を整備する。</p> <p>実施主体は、ルート案内などハード整備は道路管理者とし、サイクリストへのサポート体制づくりやPRは当該市町及び民間事業者となっている。</p> <p>本サイクリングルートのあり方としては、「誰もが安全・安心で快適なサイクリングを楽しむことができること」、「自然景観や文化、歴史資源、人との触れ合いなど地域の魅力をサイクリングと併せて楽しむことができること」としている。</p> <p>現在は石川県内で5つの地区においてルート設定しており、11月30日までスタンパラーを実施している。</p> <p>また、(株)モンベル運営のジャパンエコトラックに登録し、モンベルクラブ会員への定期的な情報発信や、モンベルショップでのルートマップ配布により、情報発信の強化を行っている。</p>	サイクルツーリズム	自転車マップ	観光振興	-
39	株式会社スマートコーティング	安藤 隼人	代表取締役	自動車学校を利用したコンパクトな総合サイクルイベント「サイクルフェスティバル in Kagoshima」	<p>「子供から大人、未経験から本格派までサイクルスポーツを楽しむイベント」をコンセプトに、敷地面積の大きな地方の自動車学校を使って5月5日自転車の日に実施した。プログラムは、①ランニングバイクレース②ママチャリリレー③チャレンジ自転車免許④スポーツサイクルスクール⑤クリテリウムレース⑥スポーツバイク試乗会⑦はじめての補助輪はずし。交通教育の一環として、①県警交通課の方にランニングバイクレースのプレゼンターと講話を依頼②ママチャリリレー前に左側走行など交通ルールを含めたフリーフィングを実施③チャレンジ自転車免許を自動車学校職員が行うなど、イベントを楽しみながら交通安全啓発を行った。エントリーした参加者は約250名。幼児・児童を引率する保護者も来場するため来場者は350名以上となった。総予算は約150万円。参加料収入で約48万円。参加者が想定より少なく、自治体からの補助金等も使用しなかったために約100万円の赤字となった。来年は福岡市で予定している。</p>	交通安全教育	サイクリングイベント	住民参加	ロードレース
40	国土交通省都市局街路交通施設課	樋爪 佑亮	国土交通省都市局街路交通施設課	まちづくりの観点を踏まえた自転車施策について	<p>我が国の都市における今後のまちづくりは、人口減少と高齢化を背景に、都市全体の構造を見直し、医療・福祉施設、商業施設や住居等を集約・誘導するとともに、これと連携した公共交通のネットワークを形成する「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えで進めていくことが求められています。環境にやさしく、身近でアクセシビリティの高い自転車は、コンパクトシティの形成を支える都市の重要な交通手段であり、その利用環境を整え、利用促進を図っていくために、自転車通行空間の整備や自転車の通行ルールの徹底と併せて、自転車等駐車場の整備が求められています。</p> <p>また、近年の公共交通機能を補完し、地域の活性化等に資する都市の新たな交通システムとして「コミュニティサイクル」の導入も全国各地で進められています。</p> <p>今回の発表は、まちづくりの観点を踏まえた自転車施策について紹介します。</p>	まちづくり	-	-	-
41	パンフィックコンサルタント株式会社	栗栖 尚、野竹 壮一郎	社会マネジメント本部交通政策部・交通政策室	サイクリングを楽しむ人々と地域をつなぐポータルサイト「たびりん(旅×自転車)」	<p>コンセプトは、「サイクリングを通じた地域とユーザのマッチング」</p> <p>「たびりん」は、「日本版スイスモビリティ」を目指しており、サイクリングを楽しむ方々と地域をつなぎ、自転車による旅をトータルにサポートすることを目的としたサービスです。</p> <p>コース・マップの閲覧・検索、コースの詳細情報・旬の情報等が可能となり、サイクリングを通して、エリアに埋もれている地域資源を発掘、情報発信する等、サイクリング環境づくりをおこない、「自転車旅したい人」の裾野を広げ、「インバウンド旅行者」の地域への来訪に寄与するものです。</p> <p>今後の展開としては、シェアサイクル、宿泊施設、自転車関連イベント、観光スポット、自転車保険等、多様な関係機関・企業団体の皆様と連携を進め、サイクリング計画から、予約・決済まで一度に行うことができるサービスの提供を目指しています。</p>	サイクルツーリズム	自転車マップ	観光振興	自転車休憩所
42	松山市	村井 望	松山市都市整備部道路建設課	「花園町通り」の道路整備	<p>松山市では、少子高齢化が進む中で、歩行者や自転車といったゆっくりの交通に配慮した「歩いて暮らせるまち松山」を目指していますが、この実現に向け、中心市街地では、安全に歩いて、健康で、生き生きと暮らせ、そして、「賑わい」を生み出す空間を創出しています。</p> <p>このような中、「花園町通り」では、「歩いて暮らせるまち松山」の新たなシンボルロードとして、電線類の地中化に合わせて、片側2車線の車道を1車線ずつにし、自転車道や快適な歩行空間の整備を進めてきました。</p> <p>東側通りでは、地元商店街が中心となった建物のファサード整備により、通りの一体感を演出することができました。</p> <p>また、「花園町通り」は pedestrian・正岡子規の生誕地であることから、照明灯の文字には子規の直筆を引用し、植え込みには子規が俳句で詠んだ草花を植えたほか、新たに「俳句ポスト」を設置しました。</p>	道路空間再配分	自転車走行空間	-	-

全国自転車活用推進フォーラム～第6回自転車利用環境向上会議in愛媛・松山～
ポスターセッション発表一覧

申込順	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード			
		氏名	所属			①	②	③	④
43	楠田悦子、小美野智紀	小美野智紀	㈱ドーコン 東京支店事業部	Mobility as a Service時代の「自転車」の使い方・使われ方～多様な自転車と公共交通の使い方・使われ方・組み合わせ方～	Mobility as a Service(MaaS)は公共交通・自転車・シェアモビリティ・自動車などの各モビリティ新たな交通施策のキーワードとして、国内だけではなく世界各地でも話題となっている。個人の移動に対し、その移動方法(手段・ルート等)に関する一元的な情報の提供や、サービス供給を行っていく中で、高齢者、乳幼児連れなど何らかの移動制約を有する方々の移動においても最適な移動方法を提供することが必要であり、シェアサイクルを含むシェアモビリティや公共交通に加え、トライクやカーゴバイクなど多様な自転車の利活用が考えられるところである。本発表は、国内外における多様な自転車の「使い方」「使われ方」、さらに自転車と多様なモード(公共交通など)との組み合わせによる利用についての考え方について事例を基に研究するものである。	都市交通	MaaS	モーダルコネク	ラストワンマイル
44	FUT交通計画研究室	鴨野椋汰	FUT交通計画研究室	サイクルあつとリンク	従来の物見遊山的観光から体験型の新しい観光への転換期となっている我が国で、自転車を活用した観光の形「サイクルツーリズム」が注目を集めている。福井県内では平成30年に団体が開催される予定であり、自転車競技やトライアスロンの開催地となっている市町では自転車利用環境向上の機運が高まっている。本研究では、誰もが暮らしやすいと思えるまちの形成を目指した取り組みを行っている。取り組みの一環として、福井県高浜町和田地区で、自転車を活用した新しい観光の形を提案しようと活動している。和田地区内の空き民宿(中山邸)をサイクリスト向けの複合施設に改修することで、地域活力向上を目指した地域拠点としてのモデルケースを見出そうとしている。改修するに当たり、福井県内のサイクリングイベント会場において、アンケート調査やヒアリング調査を実施し、サイクリストが利用しやすい施設とは何なのかを考察し、空き民宿改修の参考にした。以上のことを報告する。	サイクルツーリズム	自転車休憩場	自転車利用促進	-
45	特定非営利活動法人交通安全教育とらふいっくSisters	山崎油美子	特定非営利活動法人交通安全教育とらふいっくSisters	-	交通安全教育を主軸としている法人で、年間約45,000人の幼児から高齢者までの交通安全教室を開催しています。長年の活動経験、実施数から、現在の小中高生、成人、高齢者に合わせたそれぞれの手法を紹介いたします。	交通安全教育	-	-	-
46	国際サイクル専門学校	吉村洋三	国際サイクル専門学校 学校長	自転車を学ぶ専門学校	-	学校教育	環境教育	-	-
47	滋賀プラス・サイクル推進協議会	恩地 衛	滋賀県土木交通部交通戦略課 滋賀県商工観光労働部観光交流局 ピワイチ推進室	ピワイチ観光・日常での自転車の安全で適正な利用へ	滋賀県では、平成28年2月26日に「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が成立しました。同年10月1日からは自転車損害賠償保険等への加入が義務化されたほか、安全教育などをはじめとした安全な利用の促進、道路環境の整備、自転車を利用した観光の推進などを進めることとしています。官・民でつくる滋賀プラス・サイクル推進協議会の構成員は、環境・健康面からも、自転車でびわ湖一周「ピワイチ」をはじめとした観光や、通勤・通学などの日常における自転車の利用促進、子どもから高齢者までの幅広い層への安全利用啓発、より良い自転車の利用環境整備の研究に取り組んでおり、サポートステーションの設置促進や走行環境整備など、できるだけ一体感を持って取り組めるよう、活動を進めています。近年は「ピワイチ」の認知度が向上しており、サイクリングで県内を周遊される方が増えているとともに、様々な企業とのコラボレーションも進んでいます。	安全利用条例	自転車保険	自転車利用促進	自転車文化
48	愛媛県教育委員会	森 洋明	高校教育課	高校生のヘルメット着用取組について	平成26年に県立高校生の死傷事故発生が相次いだことを受け、平成27年7月から県内一斉にヘルメット着用義務化を行った。教育委員会では、高校生が楽しみながらヘルメットを着用できるよう、啓発に取り組んできた。現在、県立学校の通学時、特に登校時においては、ほぼ100%の着用率であり、ヘルメット着用は予想以上に好評を得ている。この取組は、国立・私立高校へと広がりを見せているだけでなく、ヘルメットをかぶるのは当然であるというような感覚を、県民に与えており、命を守ることに伴う社会の意識を変化させるはたらきがあると考える。今後とも、ヘルメットを着用することで、高校生から、自分の命は自分で守るという意識を高めるとともに、ヘルメット着用を新しいファッションとして定着させ、「自転車新文化」の発展の一翼を担っていきたい。	安全・教育	-	-	-
49	愛媛県県民環境部防災局消防防災安全課	団上貴士、横田浩司	愛媛県県民環境部防災局消防防災安全課	思いやり1.5m運動	思いやり1.5m運動の概要、広報啓発内容等について説明する。 ○県及び市町の公用車による広報啓発について ○「思いやり1.5m運動」モデル事業による広報啓発について ○思いやり1.5mメンバーについて	シェア・ザ・ロード	-	-	-
50	愛媛県環境政策課	西山洋子	愛媛県県民環境部環境政策課	自転車通勤でCO2削減!	自転車は、温室効果ガスを排出しない環境にやさしい乗り物である。平成27年3月の県地球温暖化防止実行計画改定時に、自転車によるエコ通勤を新たな施策として追加し、「環境先進県えひめ」の実現を目指して取り組みを行っている。今年度、地球温暖化防止につながる「賢い選択(クールチョイス)」を県民の皆様方に呼びかける「えひめクールチョイス大作戦」を実施し、「省エネにつながる行動」「自転車通勤」「温泉利用」を推奨する3つのキャンペーンを展開している。このうち、自転車通勤を推奨する「ツーキニスト拡大キャンペーン」では、自転車通勤や通学をする方々を応援する以下の3つの取り組みを行い、ツーキニスト人口の拡大を図っている。 ①「えひめツーキニストクラブ」 ②「自転車ツーキニスト推進事業所」 ③クラブ会員や推進事業所を支援する「えひめツーキニスト応援隊」募集 これらの取り組みを、過去の取り組みとあわせて紹介する。	自転車通勤	co2削減	-	-
51	愛媛県土木部道路都市局道路維持課	石城 龍彦	愛媛県土木部道路都市局道路維持課	愛媛マルゴト自転車道の整備について	愛媛県では、県全体を「サイクリングパラダイス」にすることを旨とし、県全域で自転車道の整備等を行う「愛媛マルゴト自転車道」を展開している。具体的には、県下の20市町で、中上級者向けに11コース、ファミリー向けに15コースのサイクリングコースを設定し、サイクリストを目的に誘導するためのフルラインの整備や、自転車等の安全な走行空間を確保するため、トンネルの安全対策や狭い路肩の拡幅などのコース整備、外国人にも分かりやすいコース案内版や勾配標識の設置を行っており、代表的な事例等を紹介する。	通行環境	-	-	-